

目的 近年，成人女子の下着類の着用率が減少傾向にあることは，従来の報告にもみられる。特に最近，女子学生のスリッパの着用が著しく低下しているようである。今回，その実態を把握するために，日常の経験を通して下着類の着用実態を季節別にアンケートにより調査し，外衣との関連，学校差などについて検討した。

方法 関東，東海地域に在住する女子学生(短大，大学)460名を対象に1992年6月～7月，着装に関するアンケート調査を実施した。調査内容は，季節別に頻度性の高い外出着の着装形態における下着(ファンデーション，アンダーウェア，ランジェリー)の着用の有無，下着の着用者はその理由，着用しない者はその理由，下着に対する関心度，下着への要望などである。データは統計処理を行い，分析した。

結果 ランジェリー類の着用率はやはり低く，特にスリッパは季節の平均で9.0%と少ない。これに対してキャミソールは14.4%と着用が多い。これは最近の一つの傾向と言える。これらの傾向と外衣との間には，ほとんど相関が認められなかった。季節別で有意の差がみられたものは，長袖シャツ，ジーンズ・パンツ，ショートパンツであり，学校別で有意の差がみられたものはフレアパンティー，キャミソール，スリッパなどのランジェリー類，およびスカート，ジーンズ・パンツであった。下着の主な着用理由は，保健衛生的な面から必要なため，肌が透けるのを防ぐため，が多く，非着用理由は，習慣で着ないため，が多かった。下着に対する関心度は高く，特にファンデーション類のサイズの多様化への要望が多かった。